

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

英語教育セミナー「英語と社会」

同時通訳者からみたグローバル人材育成、コミュニケーションとは

英語のプロである同時通訳者の視点では、グローバル人材育成のために、英語教育でどのようなことがなされるべきか。また同時通訳者は、日々どのように鍛錬し、本番に備えているのか。

「グローバル人材育成」を目指し、3月31日、東京外国語大学大学院教授で、CNNなどの同時通訳者としてトップランナーの鶴田知佳子教授をお招きし、基幹教育院と言語文化研究院の協賛を得て、第1回「英語教育セミナー」を開催しました。ご講演のタイトルは「英語と社会」でした。まず、鶴田先生が担当されたオバマ大統領の一般教書演説の同時通訳をセミナー参加者の前で披露



してくださいました。その後、生でその場のコミュニケーションを成立させるための職業である「通訳者」について、グローバル人材の要素、通訳教育の観点からサイト・トランスレーションについて講演が行われました。セミナーでは、参加者とインタラクティブな討論が行われ、グローバルに活躍するための心構え、英語学習や異文化コミュニケーションを成立させるための具体的で、かつ実行可能なストラテジーが紹介されました。

【安西 弥生 准教授】

サイト・トランスレーション

1. 情報のかたまりごとにスラッシュ／を入れ、2. 文を目で追いながら、3. その場で切れ目ごとに声に出して訳していく練習。意味を伝えることが大切。

伊都祭2015出展レポート ～みて・さわって・たのしめる！電子教材体験！～

教材開発センターでは、毎年伊都祭にて、教材開発センターで開発している電子教材や教育支援システムのデモ展示を行っています。今年は、3D 立体視とモーションキャプチャー装置を使ったバーチャルリアリティー体験、拡張現実技術を使った電子教材体験、iTunes U や OCW などのオープンエデュケー



ショナル環境の紹介、医学系シリアスゲーム教材の紹介、3D プリンターを活用した教材の紹介、平安時代の宮中儀礼の再現 CG の紹介、

センサーデバイスを使った体感デモなど様々なコンテンツを公開しました。多くの方々に電子教材を体感して頂く中で様々なディスカッションが出来ましたので、いただいたご意見をもとにさらなる研究開発を行っていききたいと思います。



【金子 晃介 助教】

大学学習資源コンソーシアム(Consortium for Learning Resources: CLR)とは？

教材開発センターでは、教職員や学生が作成したり利用したりする電子教材に他人の著作物が含まれている場合の注意点について、講習会やニュースレターなど、様々な機会にご案内して来ましたが、著作権法上、他人の著作物を利用する場合、著作権者の許諾を得ることが原則です。しかし、それでは利用者側は業務が過度に煩雑になってしまいます。このような背景から、我が国では、許諾なしに利用できる条件として、いわゆる例外規定が設定されています。ところが、大学の教育現場で電子教材を利用しようとする場合、その状況に応じて適用される例外規定が異なります。さらに、グレーゾーンと解釈される事例も多く、教材作成者にとって悩ましいのが現状です。

CLRは、この現状を打開するために2014年に設立されました。我が国では、著作物の権利者と利用者との間に一定の契約が成立すれば、著作権法の適用外とされ、論文や教科書を出版する際の著作権譲渡契約書等もこれに該当します。同様に、権利者と利用者との間で個別の許諾なしに、現在よりも柔軟な利用を可能とする契約を包括的に結ぶこと

も可能です。すでに様々な著作物について、この包括契約のための権利管理団体が存在しています。そこで、私達大学と学術情報に関する書籍を出版している団体や企業との間でこのような包括契約を可能とするための団体、それがCLRです。

2015年2月13日現在、18大学が参画しており、複数の団体や企業との交渉が始まっています。また、他人の著作物の利用に関する教材作成者側のガイドラインの策定も始動しており、今後の動向が注目されます。



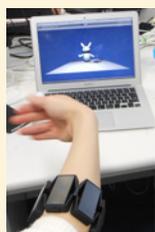
URL ▶ <http://clr.jp/>

【吉田 素文 教授 (協力教員)】

次世代の教材開発を支える技術

～アームバンド型ウェアラブルコントローラ「Myo」～

今回紹介するのは、アームバンド型ウェアラブルコントローラ「Myo」です。この装置は、筋肉を動かしたときに流れる微弱な電流を測定し手の動きを認識することが出来ます。私たちが普段パソコンを扱うときには、キーボードやマウスを使ってパソコンを操作しますが、Myoを使うと手のジェスチャーでパソコンを操作することが出来ます。Myoを使用する際は、写真のようにアームバンドとして腕にMyoを装着して利用します。MyoとパソコンとをBluetoothという近距離無線通信を利用して接続することで、遠隔地から腕を動かしてパソコンを操作することが出来ます。ジェスチャーを使って直感的にコンピューターを操作できるため、教育現場でのプレゼンテーションなどへの利用が期待されています。アームバンド型ウェアラブルコントローラを利用して教育支援用のシステムを研究開発してみたい方がいらっしゃいましたら、是非私達と一緒に共同研究をしてみませんか。ご連絡お待ちしております。



【金子 晃介 助教】

3次元CGのプログラム開発でお困りではありませんか？

教材開発センターでは、3次元CG等のICTを活用した電子教材開発とその支援を行っています。教材に限らず、3次元CGのプログラム開発で必要となる知識や技術等について、ご不明の点がございましたら以下のURLからお気軽にお問い合わせ下さい。

▶ <http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/contact>

教材開発センターのホームページにも情報がございましたらご活用下さい。例えば、3次元CGコンテンツをWebブラウザで描画するための技術であるWebGLとその開発環境につきましては、以下の資料をご参照下さい。

▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/docs/seminar/seminar_dev_20130627.pdf



また、3次元CGコンテンツを扱える電子書籍のフォーマットであるApple社のiBooksの詳細につきましては、以下のページをご参照下さい。

▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/howto_make

【岡田 義広 教授 (教材開発センター長)】

FD電子教材著作権講習会を開催しています

録画した講義や講義資料・学習資料等をWeb上で公開しようとする際に、その中に含まれている表、画像、文章等に他人の著作物が含まれている可能性があります。これらの公開資料を作成する際の問題点や必要事項について、ガイドライン等に基づき、分かりやすく解説します。

5月には伊都キャンパスにて開催しました。今後の予定は以下の通りです。

今後の講習会 開催予定	箱崎	7月	日時・会場未定
	病院	9月	日時・会場未定

※詳細が決定次第、ICERウェブサイトにてお知らせいたします

ご要望に応じて、各部署や研究室でのFD電子教材著作権講習会を開催いたします。ぜひご依頼ください！

FD講習会依頼フォーム ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/apply_seminar